

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：13201

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2013

課題番号：24653247

研究課題名(和文)「万引き」の社会的意味の変容と対策改善に関する実証的研究

研究課題名(英文) The demonstrative study concerning the transfiguration of the social meaning of shoplifting and reform measures to counter shoplifting

研究代表者

久保田 真功 (KUBOTA, MAKOTO)

富山大学・人間発達科学部・准教授

研究者番号：00401795

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円、(間接経費) 780,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、少年と高齢者の万引き被疑者を対象とした質問紙調査、さらには一般の少年と高齢者を対象とした質問紙調査をもとに、少年と高齢者の万引きの規定要因について検討することにある。被疑者調査の対象は、愛媛県内において取り調べを受けた被疑者の少年(20歳未満)90名と被疑者の高齢者(65歳以上)108名である。一般調査の対象は、愛媛県内の中高生976名と愛媛県内の高齢者(65歳以上)437名である。分析の結果、少年の万引きについては、学校との社会的絆や将来展望の喪失が、また、高齢者の万引きについては、厳しい経済状況や社会的孤立、生きがい感の喪失が影響を及ぼしている可能性が示唆された。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this study is to investigate the factors which affect shoplifting of juveniles and the factors which affect shoplifting of aged citizens, based on the questionnaires which subjects are shoplifting suspects of juveniles and of aged citizens, and the questionnaires which subjects are ordinary juveniles and aged citizens. The subjects of questionnaires to shoplifting suspects are 90 people (under 20 years old) and 108 people (over 65 years old) who received an investigation in Ehime prefecture. The subjects of questionnaires to ordinary people are 976 students in junior high schools and high schools, and 437 aged citizens (over 65 years old) in Ehime prefecture.

The major findings are summarized as follows: (1) Weakening of social bonds to school and loss of future prospects affect shoplifting of juveniles. (2) Hard life economically and social isolation, loss of meaning to life affect shoplifting of aged citizens.

研究分野：教育社会学

科研費の分科・細目：挑戦的萌芽研究

キーワード：万引き

1. 研究開始当初の背景

万引きは「初発型非行(遊び型非行)」というカテゴリーの一部として扱われる経緯があったために、「初発型非行(遊び型非行)」に関する研究は比較的多く見られる。その一方で、万引きを直接扱った研究は少なく、万引き経験者を対象とした調査研究となるとより一層少なくなる。鈴木(1990)は、全国の警察に刑法犯、特別法犯で補導された中高生を対象とした調査をもとに、一口に「初発型非行」といっても、その手口や罪種によっては再非行率などの点において同列に扱うことができないことを明らかにしている。加えて、少年非行は「戦後最悪」と言われた1983年以降減少傾向にあるが、刑法犯少年に占める万引きの割合は依然として高く、今現在においても全体の3割を超えている。この結果に鑑みれば、万引きを「初発型非行」の枠内で論じるだけではなく、独立した研究対象として取り上げる必要があると言える。

このような状況のなか、少年の万引き経験者を対象とした調査研究も一部行われている。その多くは、各都道府県警に補導・検挙された少年を対象とした調査をもとにしている(衛藤 1980, 降旗 1983, 田中ほか 1996 など)。これらの調査研究により、少年による万引きの実態がある程度明らかになってはいるものが現状である。

また、かつては万引きは少年に特徴的な非行であると考えられていたが、近年高齢者による万引きが大きな問題となっている。少年を含めた全刑法犯検挙被疑者に占める少年および高齢者の割合の推移を見てみると、少年については減少傾向にあるのに対し、高齢者については増加の一途をたどっている。そのため、全刑法犯検挙被疑者に占める少年の割合と高齢者の割合は、かなり接近してきている。こうした実態を踏まえ、少年のみならず成人や高齢者を含めた万引き経験者を対象と

した調査も行われるようになってきている(「万引きをしない・させない」社会環境づくりと規範意識の醸成に関する調査研究委員会 2009、香川大学・香川県警察 2011 など)。これらの調査では、少年と成人と高齢者との比較もなされてはいるものの、分析は項目ごとの3者間の比較という単純な分析にとどまっており、万引き行為の規定要因までは明らかとはなっていない。しかし、効果的な万引き予防策を講じるためには、こういった要因が万引き行為に大きな影響を及ぼすのか、また、少年と高齢者とで万引き行為を規定する要因に違いがあるのかどうか、ということを検討する必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、少年および高齢者を対象とした質問紙調査をもとに、万引き行為を規定する要因を明らかにするとともに、効果的な万引き予防策を提案することである。目的を達成するために、3つのサブテーマに基づき研究を実施する。第1が、少年の万引き規定要因の分析である。第2が、高齢者の万引き規定要因の分析である。第3が、第1および第2の分析を基盤とした統合的分析結果からの効果的な万引き予防策の提案である。

3. 研究の方法

調査は大別して、被疑者少年および被疑者高齢者対象調査と一般少年および一般高齢者対象調査からなる。

被疑者少年・被疑者高齢者調査については、愛媛県警察の協力のもと、2度実施した。第1回調査は、2011年10月から2012年2月末にかけて実施した。調査対象は、被疑者の少年(20歳未満)41名、および被疑者の高齢者(65歳以上)49名である。

第2回調査は、被疑者少年調査については、2012年8月から2013年2月末にかけて実施した一方で、被疑者高齢者調査については、

2012年8月から2012年10月末にかけて実施した。被疑者少年調査の実施期間を被疑者高齢者調査よりも長く設けたのは、被疑者少年のデータの集まり具合が不十分であったためである。

なお、第2回調査で使用した質問紙については、第1回調査の結果を踏まえ、質問項目を一部修正・追加した。

第2回調査の対象は、被疑者の少年(20歳未満)49名、および被疑者の高齢者(65歳以上)59名である。第1回調査の質問紙と第2回調査の質問紙では、その大半が共通の項目で構成されている。そこで、第2回調査のデータを分析するにあたっては、新たに追加した項目を除き、第2回調査のデータに第1回調査のデータを加えて分析することとした。

一般少年・一般高齢者調査の対象は、愛媛県内の中高生976名および愛媛県内の高齢者(65歳以上)437名である。

4. 研究成果

分析を行った結果、主には以下のようなことが明らかとなった。

被疑者高齢者は被疑者少年と比べ、社会的に孤立している。

被疑者高齢者は被疑者少年と比べ、経済的に厳しい状況に置かれている。

犯行の曜日については、被疑者少年では土曜日と日曜日に集中しているのに対し、被疑者高齢者では各曜日に分散している。

犯行の時間帯については、被疑者少年では夕方の方の割合が高いのに対し、被疑者高齢者では午前中の割合が高い。

被疑者少年は被疑者高齢者と比べ、複数で犯行に及ぶ傾向にある。

被疑者少年は被疑者高齢者と比べ、計画的に犯行に及ぶ傾向にある。

被疑者少年は被疑者高齢者と比べ、友人との関係を良好であるとする傾向にある。

被疑者高齢者は被疑者少年と比べ、家族との関係を良好であるとする傾向にある。一般少年は被疑者少年と比べ、家族と良好な関係にあると感じている一方で、被疑者少年は一般少年と比べ、家族との心理的な距離を感じている傾向にある。

被疑者少年は一般少年と比べ、進路について真剣に考えることや将来展望が乏しい傾向にある。

被疑者少年は一般少年と比べ、特別活動や部活動への取り組みが低調な傾向にある。被疑者少年は一般少年と比べ、学校の決まりを守るという自覚に乏しく、学校の決まりを守らない傾向にある。

被疑者少年は一般少年と比べ、万引きしたことがその後の進路に及ぼす影響を低く見積もる傾向にある。

被疑者高齢者は一般高齢者と比べ、社会的に孤立している。

被疑者高齢者は一般高齢者と比べ、経済的に厳しい状況に置かれている。

一般高齢者は被疑者高齢者と比べ、家族と良好な関係にあると感じている一方で、被疑者高齢者は一般高齢者と比べ、家族との心理的な距離を感じている傾向にある。

一般高齢者は被疑者高齢者と比べ、友人や地域の人と良好な関係にあると感じる傾向にある。

一般高齢者は被疑者高齢者に比べ、様々なことに生きがいを感じる傾向にある。

以上の結果を踏まえると、少年の万引き予防策については学校との絆を回復させることを企図した対策が有効であると考えられる。

一方、高齢者の万引き予防策については経済的支援が有効であるとともに、社会的な孤立を防ぐために周囲の人々と社会的なネットワークを取り結ぶことを支援する取り組みを行い、そのことを通じて生きがいを感じることができるよう促すことが有効であると考

えられる。

引用文献

衛藤文一郎 1980, 「少年による万引きの実態とその対策」『青少年問題』27 巻 9 号, 28-33 頁。

降旗志郎 1983, 「長野県下における万引き非行の実態」『科学警察研究所報告 防犯少年編』24 巻 1 号, 106-116 頁。

香川大学・香川県警察 2011, 『万引き防止対策に関する調査報告書』。

「万引きをしない・させない」社会環境づくりと規範意識の醸成に関する調査研究委員会 2009, 『万引きに関する調査研究報告書』。

鈴木真悟 1990, 「初発型非行の特徴と警察の対応」『犯罪社会学研究』第 15 号, 50-65 頁。

田中純夫・田中奈緒子 1996, 「万引きで補導・検挙された少年の生活意識と犯行時の意識」『犯罪心理学研究』第 34 巻第 1 号, 1-16 頁。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

久保田真功・白松賢 2013, 「少年の万引き行為を深化させる要因の検討 初めて補導された者と 2 回以上補導された者との比較をもとに」日本生徒指導学会編『生徒指導学研究』第 12 号, 38-48 頁。

〔学会発表〕(計 3 件)

日本特別活動学会第 21 回大会(於: 愛媛大学、平成 24 年 8 月 26 日)にて発表。発表タイトルは、「『万引き』の社会的意味の変容と対策改善に関する実証的研究」。発表者は、久保田真功。

「Global Teaching Conference (学会)」(於: アーカンソー州立大学、平成 25 年 3 月 27 日)にて発表。発表タイトルは、「Reconsidering Prevention and Treatment Strategy for “ Juvenile Shoplifting ” under the Concept of “ Play-Type ” Delinquency 」。発表者は、白松賢。

日本生徒指導学会第 14 回大会(於: 京都市立堀川音楽高等学校、平成 25 年 11 月 10 日)にて発表。発表タイトルは、「『万引き』の社会的意味の変容と対策改善に関する実証的研究」。発表者は、久保田真功。

〔図書〕(計 1 件)

久保田真功 2014, 「問題行動と生徒指導」山崎博敏編『教育の制度と社会』協同出版, 141-153 頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

愛媛県警察「大学との万引き共同研究」
(<https://www.police.pref.ehime.jp/seiki/mannbikibousi/kenkyuu.pdf>)

久保田真功 2013, 「非行防止の視点からみた特別活動の意義と課題 『万引き』を事例として 『日本特別活動学会 研究開発委員会 平成 24 年度研究推進報告 (平成 25 年 3 月)』 19-20 頁。

愛媛県警察・白松賢(愛媛大学)・久保田真功(富山大学) 2013, 『万引きに関する調査報告書(平成 25 年 4 月)』。

愛媛県警察・白松賢(愛媛大学)・久保田真功(富山大学) 2014, 『万引きに関する調査報告書(平成 26 年 3 月)』。

6. 研究組織

(1)研究代表者

久保田 真功 (KUBOTA, Makoto)
富山大学・人間発達科学部・准教授
研究者番号：00401795

(2)研究分担者

白松 賢 (SHIRAMATSU, Satoshi)
愛媛大学・教育学部・准教授
研究者番号：10299331

(3)連携研究者

()

研究者番号：